

五大虚空蔵菩薩と愛染明王

観智院の本堂には五大虚空蔵菩薩像が安置されている。これらの像は、9世紀に空海（774-835）の真言宗の弟子である恵運（798-869）によって中国から持ち帰られた。これらの神々は、真言宗で主に使用される2つの曼荼羅のうちの1つである金剛界曼荼羅の中心に描かれている五大佛の姿を表現している。馬に乗って中央にいるのは、宇宙そして原始の佛である大日如来。他の諸佛は、獅子、象、孔雀、ガルーダ（ヒンズー教の神話の鳥）に乗っている。

本殿のもう1つの注目すべき像は、赤顔で6本の腕を持つ知恵の王である愛染明王である。これは、邪悪な者を懲らしめ、忠実な者に規律を守らせることで佛教を守る憤怒の佛の一人である。像は、江戸時代（1603～1867年）のものである。驚くべきことに、恐ろしい外見にもかかわらず、信者たちは愛染明王に良縁と家内安全を願って祈るのである。